



### ◎第六回定時會員總會並評議員會

本月十日日本會第六回定時會員總會並に評議員會を、東京市麹町區永樂町東京銀行俱樂部に開く、出席者は水野會長内田副會長山田、松木、堀切、比田、長岡、中川、村井、池田、佐上各理事評議員山根男爵、福田大將、市瀬内務技監、松本内務書記官、長岡中將、坂本貴族院議員、服部金太郎、淺野總一郎、岡本英太郎、杉浦宗三郎、近藤達兒、垣見八郎右衛門、以上諸氏にして丹羽、伊藤、牧野、佐藤、田中等内務關係の各幹事及都筑平山兩專任幹事參集した。

水野會長議長席に着き、便宜會員總會並に評議員會を併合して開會を宜し、親しく前年度事務の概況を演述し次で、田中幹事別項事務報告を朗讀す、次に山田常務理事前年度經理の概況より延いて現況に涉り詳細に説明する所あり、次に大正十四年度歳入出豫算及特別會計歳入出豫算の議に入り、丹

羽幹事詳細之が説明をなし、原案の通り決議す次で別項定款變更の議に入り、丹羽幹事の説明あり、之亦原案を可決す。是にて一時會員總會を休み單に評議員會を開き、特別會員推薦の件を附議す、時に別項推薦せんとする人士の氏名を朗讀せしめ、滿場拍手を以て之を迎へ、茲に推薦の議を決し、追て各人士の承諾をもとむることとした。

更に評議員會を休み、會員總會を再開、評議員の選舉を行ひ別項諸氏の當選を見たり、之にて本日の會員總會を閉ぢ、再び評議員會を開き理事及監事の改選を行ひ別項の諸氏選任せらる、以て本日の評議員會を閉づ、次で同所に理事會を開き、別項會長、副會長、常務理事の互選ありて、當日の會務を終了した、事務の報告と推薦された特別會員、評議員及理事監事は左の通りである。

### 大正十三年度事務報告

本期ハ大震災ニ依リ燒失シタル各種資料ノ蒐集及調査物ノ再製ニカメタルノ外豫定計畫ニ係ル事業ヲ執行シ幸ニ相當ノ成績ヲ收ムルコトヲ得タリ其ノ主ナル事業ノ概要ヲ報告スルコト左ノ如シ

一 政府ノ道路改良費豫算維持ニ關シ建議ノ件

政府ハ大正十四年度豫算ノ編成ニ付テハ極力財政緊縮ノ方針ヲ採リ曩年樹立セラレタル我國道路改良政策ノ如キ之ヲ拋棄シ同年度ニ於テハ計畫豫算ヲ全部廢止スルヤノ風説頗ル喧カリシヲ以テ若シ其ノ方針ノ實現ヲ觀ムカ漸ク緒ニ就カムトセル我國道路改良事業ハ爲ニ一大頓挫ヲ來シ將來ニ於ケル道路改良ノ機運ヲ阻止スルヤ明カナルノミナラス延イテ農村ノ開發ヲ阻害シ地方財政ノ經理ヲ困難ナラシムル等其ノ波及スル所測リ知ルヘカラサルモノアルヲ以テ本會ハ緊急理事會ヲ開キ之カ對策ニ關シテ慎重考究ヲ重ネタル結果内閣總理大臣及内、藏、兩大臣ニ對シテ道路改良費全廢ノ不可ナル旨ヲ建言シ濫濫顧問、山田理事本會ヲ代表シテ再三關係各大臣ト會見シ具體的成案ヲ提示シテ徹底的ニ意見ヲ交換スル所アリ遂ニ當局ヲシテ本會ノ意見ニ共鳴セシメ大正十四年度道路改良費豫算カクク三百五十萬圓ヲ維持セラルルニ至リタルハ本會ノ功與リテ大ナルモノアリ加之其ノ效果ハ更ニ地方豫算ノ編成ニ甚大ノ影響ヲ與ヘ一旦廢止ニ内定シタル道路改良事業ニシテ復活ヲ見ルニ至リシモノアリシカ如キ全國ニ互リテ道路改良事業ノ促進ニ貢獻シタル所蓋シ尠少ニ非ス

一 第二回道路職員講習會開催ニ關スル件

道路改良ノ實ヲ舉クルニハ道路職員ノ知識技能ニ俟ツモノ極メテ多キヲ以テ之カ向上發展ヲ圖ルカ爲大正十三年八月十八日ヨリ二週間ニ互リテ道路職員講習會ヲ開催シタリ聽講者ハ道府縣ヲ始メ臺灣、朝鮮兩總督府及東京所在官廳ノ推薦ニ係ルモノ百五十名ノ多キニ達シ主トシテ道路行政ノ概要及道路技術ニ關スル科目ニ就キ講習ヲ行ヘリ時恰モ炎暑ノ候ナリシニモ拘ハラズ何レモ熱心ニ聽講シ此ノ種事業ノ繼續ヲ希望スル者續出スルニ至リタルハ以テ本事業カ時代ノ要求ニ副ヘルカヲ知ルニ足ルヘク而シテ其ノ講習ニ依テ得タル知識技能ヲ實地ニ應用スルコトニ依テ我國道路改良ニ資スル所尠少ナラサルモノアルヲ信ス尙本會ハ聽講スルコト能ハサリシ者ノ爲更ニ講習録ヲ發行シテ道路行政ニ關スル知識ノ普及ニ力メムトス

一 會員及贊助員ノ狀況ニ關スル件

現在ニ於ケル本會々員ハ二百五十三名ニシテ前年ニ比シ著シキ増加ヲ見スト雖贊助員ハ五千八百三十三名ノ多キニ達シ現ニ大阪府、兵庫縣、新潟縣及北海道ニ於テハ支部ノ設置ヲ

計畫シ其ノ他ニ在リテモ亦之ガ計畫ヲ見ムトスルノ狀況ニ在リ依テ支部ニ關スル準則ヲ定メ會員及贊助員募集ノ勸誘ヲ爲シツ、アルヲ以テ日ナラスシテ増加スルノ形勢ナリ

### 一 機關雜誌發行狀況ニ關スル件

機關雜誌「道路の改良」ハ常ニ内容ノ充實ト改善トヲ圖リ名士ノ意見ヲ蒐集シ或ハ時ニ懸賞論文ヲ募集スル等ノ方法ニ依リ道路ニ關ズル専門的知識ノ普及ト是等ノ事項ヲ通俗化セムコトヲ期シ本誌發行ノ趣旨ヲ貫徹スルコトニカメツ、アリ其ノ發行部數六千五百ニ及ヒ此ノ種雜誌界ニ於テ異數ノ成績ヲ擧ケツ、アリ

### 一 東北地方ニ於ケル道路改良宣傳中止ノ件

埼玉、栃木、福島、宮城、岩手、青森、秋田及山形ノ各縣ニ互リ道路改良宣傳ノ計畫ヲ立テ之カ實行ニ關シ發表スル所アリシモ不幸豫定ノ講演者ニ支障ヲ來シ中止ノ已ムヘカラサルニ至リタルハ遺憾トスル所ナルモ各地方ニ於テ道路改良工事ヲ起工又ハ竣功ノ式典ヲ擧クルニ方リテハカメテ幹事ヲ派遣シ道路改良ノ宣傳ニ努メタルカ爲本事業ヲ中止シタリト雖宣傳ニ付相當ノ效果ヲ擧ゲ得タリト信ス尙本件ニ關シテハ更

ニ機ヲ見テ計畫ノ實行ヲ期セムトス

以上ハ本期ニ於ケル事業ノ概要ニシテ特筆スヘキモノ尠キカ如シト雖可及的經費ノ節約ヲ圖ルト共ニ事業ノ經營ニ就テハ專ラ摺實ヲ旨トシ以テ所定事業ノ效果ノ多大ナラムコトヲ期シタリ會員各員冀ハ之ヲ諒セラレムコトヲ

### 定款變更ノ件

定款中左ノ通變更セムトス  
第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

本會ノ役員ハ任期滿了後ト雖次ノ會員總會ニ於テ後任役員ヲ選舉スルマテ在任ス

理由

役員ノ任期滿了シ其ノ後任役員決定スル迄ノ間缺員ト爲ル場合アルヲ以テ本文ノ如ク改正スルノ必要アリ

參照

第十六條 評議員ノ任期ハ三年トス但シ重任ヲ妨ケス

本會ノ役員ニ闕員ヲ生ジタルトキハ特ニ補闕ノ必要ナキ場合ニ限り次ノ改選期迄之ヲ延期スルコトヲ得補闕員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

特別會員

東京市電氣局技術長

陸軍次官

内務省土木局港灣課長

伊藤 武彦君 内務省東京土木出張所長

大藏政務次官

早速 整爾君 鐵道公認運送組合中央會々長

鐵道省建設局長

八田 嘉明君 東京市參事會員(特殊關係者)

地方技師(東京府)

伴 宜君 内務省地方局長

内務省土木局道路課長

丹羽 七郎君 内務技師

内務省土木局長

堀切 善次郎君 三井銀行

大藏省理財局長

富田 勇太郎君 東京府土木課長

東京株式取引所理事長

岡崎 國臣君 東京市參事會員(特殊關係者)

海軍次官

大角 岑生君 同

鐵道省運輸局長

種田 虎雄君 東京市道路局技術長

復興局土木部長

太田 圓三君 大藏次官

内務政務次官

片岡 直溫君 三菱地所部長

内務省土木局第二技術課長

金森 歙太郎君 鐵道次官

大藏省主計局長

河田 烈君 第一銀行支配人

東京帝國大學經濟學部教授

河津 暹君 安田銀行頭取

内務省地方局財務課長

田中 廣太郎君 内務次官

東京市電氣局長

大道 良太君 内務省都市計畫課長

東京市助役

田澤 義鋪君 内務省土木局第一技術課長

曾山 親民君

津野 一輔君

中川 吉造君

中野 金次郎君

村松 恒一郎君

潮 惠之輔君

内山 新之助君

矢野 亮一君

正木 虎藏君

福田 又一君

小坂 梅吉君

近 新三郎君

田 昌君

赤星 陸次君

青木 周三君

明石 照男君

結城 豐太郎君

湯淺 倉平君

篠原 英太郎君

島 重治君

男爵

復局東京第二出張所長

内務技師

内務參與官

復興局東京第一出張所長

經驗者

森村 開作君

茂庭 忠次郎君

物部 長穗君

鈴木 富士彌君

山田 博愛君

丹羽 勲彦君

堀 田 貢君

堀越 角次郎君

堀切 善次郎君

床次 竹二郎君

富田 勇太郎君

種 田 虎雄君

大 田 圓三君

岡 本 英太郎君

和 田 龜治君

渡 邊 勝三郎君

若 林 成昭君

評 議 員

井 上 準 之 助 君

池 田 成 彬 君

池 田 圓 男 君

犬 塚 勝 太 郎 君

池 田 宏 君

市 瀬 恭 次 郎 君

岩 井 重 太 郎 君

岩 出 惣 兵 衛 君

石 渡 敏 一 君

伊 藤 武 彦 君

原 田 貞 介 君

長 谷 川 久 一 君

服 部 金 太 郎 君

林 博 太 郎 君

濱 口 雄 幸 君

鳩 山 一 郎 君

橋 本 圭 三 郎 君

早 速 整 爾 君

八 田 嘉 明 君

伴 宜 君

大 橋 新 太 郎 君

大 倉 喜 八 郎 君

大 川 平 三 郎 君

岡 崎 久 次 郎 君

岡 崎 邦 輔 君

岡 野 昇 君

小 野 英 二 郎 君

小 川 平 吉 君

大 村 彦 太 郎 君

大 村 倫 太 郎 君

織 田 昇 次 郎 君

岡 崎 國 臣 君

川 崎 八 右 衛 門 君

門 野 重 九 郎 君

各 務 鎌 吉 君

神 戶 舉 一 君

神 田 鐘 藏 君

金 杉 英 五 郎 君

各 務 幸 一 郎 君

片 岡 直 溫 君

金 森 蹊 太 郎 君

河 田 烈 君

河 津 遷 君

原 六 郎 君

角野庄太郎君	中島久萬吉君	安田善三郎君	藤山雷太郎君
垣見八郎右衛門君	成瀬正恭君	山下龜三郎君	古河虎之助君
吉田丹次郎君	那波光雄君	山田英太郎君	古市公威君
團琢磨君	中川正左君	山本梯二郎君	藤瀬政次郎君
高木益太郎君	長岡隆一郎君	柳澤保惠君	福澤桃介君
武富時敏君	直木倫太郎君	山田博愛君	藤原俊雄君
田中廣太郎君	中川吉造君	山根武亮君	福田又一君
大道良太君	中野金次郎君	矢野恒太君	福田雅太郎君
田澤義鋪君	村井貞之助君	矢野亮一君	郷誠之助君
相馬半治君	村井二郎吉君	松方巖君	昆田文次郎君
曾山親民君	村松恒一郎君	馬越恭平君	小橋一太君
津村重舍君	内田嘉吉君	松木幹一郎君	近藤達兒君
津野一輔君	潮惠之輔君	増田義一君	小坂梅吉君
根津嘉一郎君	内山新之助君	前田利定君	近新三郎君
長岡外史君	串田萬藏君	牧岡均平君	手塚猛昌君
内藤久寛君	日下部辨次郎君	松本學君	田昌君
		正木虎藏君	淺野總一郎君



方に於て本會の爲め日常多大の盡力を煩はしてゐる方々であるから此機を幸として聊か勞を謝し且將來一層の御助力を願はうといふのが其の趣旨であつた、港灣協會でも同様の企があつたが主任官諸氏の時間の都合やら、本會と港灣協會とは道路と港灣との差こそあれ共に交通機關の完備を期するといふ大目的を一にしてゐるといふことや、會長を始めとして役員に同一の人が多いといふことや、又招待する趣旨が同じであるといふことやいろいろ都合上合同して一夕の宴を催すことにしたのである。

午後四時主任官會議が終つた頃、朝から降りみ降らずみの五月雨は大雨と爲つて街路は例によつて歩行困難なので數十臺の自動車を驅つて内務省から青葉の薰る上野へお迎へした、來賓としては正木東京、村山大阪、西池京都、高田神奈川、田邊兵庫の各府縣土木課長を始め各縣土木課長、技師、道路主事の各位總計百數十名、主任者側としては水野本會及港灣協會兩會長、堀切、佐上、山田理事其他兩會の理事幹事等が多數參會した。一面に蓮の嫩芽が頭を擧げ始めてゐる黄昏の不忍池を見下す清々しい大廣間で食堂の開かれるのを待つ間に水野會長は左の如き一場の挨拶を爲した。

「港灣協會は港灣政策を攻究し、港灣修築又は海陸聯絡施設

の完成を促進し、港灣利用の方法を改善すると共に、港灣關係者間の聯絡懇親を圖るを目的として設立せられ、平素諸君の御協力を得て種々の活動を致して居りますが昨年行政整理の際に政府の港灣調査會が廢止せられてしまつたので、其以後は本會は我國に於ける唯一の港灣問題研究機關となり、其の責務は一層重きを加へることとなりました、本會は幸に多數の港灣専門家や有力者を包容してゐるから、克く此の重責に堪え得ること考へて居ますが、尙一層諸君の御助力を得て國家の爲めに貢獻致し度いと希ふて居ります、又道路改良會は汎く道路改良に關する方策を講究し、道路の完備を促進するを目的として設立せられられ、之亦平素諸君の多大の御援助を得て地方の會員數も著しく増加し、漸次發展して諸種の活動を續け、我國道路問題の爲めには少からず貢獻して來たのであります、惟ふに道路は直接其の利害の及ぶ所が單に特殊の事業者にのみ限るものではなく、如何なる人も皆日々之を利用し之によつて利益を蒙るものであつて、農村の開發も都市の股賑も道路の良否に關する所頗る多く國家産業の興廢に至大の關係を有するものであるから一日も速に普及完備を期しなくてはなりません、然るに我國現下の財政は各種土木事業の打切繰延を餘儀なくし急速に右の如き理想を達成す



るを許さざる實狀であつて、甚だ遺憾のことではありますが、しかし何時までもかかる狀況にあるものではありません、その内には又大いに土木事業を起し得る時代も來ることでありませう、其の時に至つて遽に調査を開始するといふのでは誠に不用意であると申さねばなりません、夫れ故に今の間に充分に調査研究を遂げ且社會をして道路改良の必要を悟らしめ

事業促進の輿論を誘起する等準備に遺漏なきを期せねばなりません、願はくば諸君に於かせられても充分本會の精神を御諒得下され一層の御援助をお願ひ致す次第であります。

右終つて本會の田中幹事は左記の如き協議事項を提示して各地方の幹事に協力を乞ふ所があつた。

#### 會員及賛助員の募集に關すること

會員及賛助員の募集に關しては常に不尠御盡力を煩はし別表に示すが如き成績を擧げ得ましたのは誠に感謝致す所でありませんが尙一二縣の如きは全然會員及賛助員を有せざる地方がありまして寔に遺憾に堪へません、本會は固より賛助員の多數ならむことを望みますけれども尙更に會員の多數ならむことを切望する所でありますから何等かの方法に依り之を實現されんことを希望する次第であります、従つて之が爲には

支部を設置せらるるか又は講演會等を開催せらるる御内意もありませんならば本會は之が爲十分努力致す方針でありますから一層御盡力あらむことを希ふ次第であります若し現在の募集方法に付不十分の點がありましたならば御腹藏なく御指摘あらんことを望みます。

#### 會費の徴收に關すること

會費の徴收に就ては格別の御配慮を煩しつつあります尙甚だ不成績でありまして本會財政の經理を困難ならしめつつあるの實狀でございますから一層の御配慮を得度又其の徴收の整備に關しては從來本會の取扱も完全でなかつた點もありませんので先般名簿を作成し御照合をお願ひ致し置きましたに より成るべく早く手續を御完了の上御返却を願ひます。

#### 雜誌に關すること

機關雜誌「道路の改良」は七千部を發行するの盛況を呈し其の内容の充實を期し事の専門に屬するものを集録すると共に之を通俗化せむとする方針に依り編輯しつつありますが未だ以て十分であると言ふことは出来ません故に之が編輯に關する御意見を承り度いと存じます又同時に地方に於て執行せ

られたる工事の實績等に付御投稿を得ば斯道に従事する者の爲に多大の参考となりますから續々御投稿あらむことを願ひます。

調査部の利用に關すること

今回調査部を擴張して第一乃至第五の調査部を設け道路及交通に關する法制の調査道路費に關する財政の調査道路の經濟上の効果に關する調査、道路の路面構造及維持に關する調査、道路の線形其他道路技術に關する調査を爲すこととし大正十四年度に於ては道路に關係ある法制に關する調査、道路工事費特別賦課に關する模範的準則の制定、道路改良助成費に關する調査、道路工事費特別賦課の成績、自動車税及公共團體の道路費財源の調査、道路運送費輕減に關する調査、道路交通用具改善の調査、路面鋪裝の調査、山陽道其他國道改良計畫の調査、主要府縣道の選擇及其の改良設計等の事項に付き調査し順次其の結果を發表する見込であります故に調査資料蒐集等に付御面倒をお願ひ致すこともありませうが其節は何卒御援助をお願ひ致します、尙諸君の御希望に應じ各種の調査の依頼に應ずる方針でありますから十分調査部を御利用相成り度いと存じます。

本會に對する希望を承りたきこと

本會の施設經營する事業にして未だ地方の要求に副はざるものもあらうと思ひますから御希望がありましたならば御腹藏なく承り度うございます。

會員及贊助員數調 (大正十四年三月三十一日現在)

府縣名	通常會員 (二百圓入金)	名譽會員 (地方)	贊助員 (六圓)	總員數
北海道	一九五			一九五
東京	九			九
京都	三三			三三
大阪	三四			三四
大坂	八〇			八〇
神奈川	一五			一五
兵庫	一〇一			一〇一
長崎	三〇			三〇
新潟	三三			三三
新潟	三〇			三〇
埼玉	〇			〇
群馬	一			一
千葉	一			一
茨城	二七			二七



つき報告及協議を爲し、午後七時頃食堂を開いた。

デザートコースに入るや水野會長は左の如き挨拶を爲し杯を擧げて來賓各位の健康を祝した。

今夕は日頃多大の御盡力を煩はして居ります所の道路改良會及港灣協會が御招待致しました處諸君には御多忙でもあり又生憎の雨天にも拘らずかく多数御來會下さいまして誠に有り難い次第でございます。道路改良會と港灣協會とが合同してお招き致したのでありますから定めし澤山な御馳走があるであらうと御期待下さつた方もございませうけれども實は御覽の通りの粗酒粗餐に過ぎません、しかし願はくば先刻も別室で申し上げましたような兩會の微意の存する所を御諒承下さいましてゆる／＼充分御高見を御披露下され度うございます。終に臨みまして皆様の御健康をお祝し致し度いと思ひます。之に對して北海道廳河川課長土井技師は來賓一同を代表して謝辭を述べた。それから別室に退き初夏の夜の更け行くのも忘れて歡談に耽つた。(論愚生)

### ◎松齡橋竣工上下水道の完成

#### 福島市の三大事業

松齡橋竣工式が上下水道の竣工式と併せて舉行せられるこ

とになつた福島市では大ききである、何れも同市の永年渴望された大事業であるので當日の人氣も大層なものであつた。松齡橋は日本での巨川である阿武隈川に架せられたものであつて府縣道の橋梁ではあるが同市にとつてはことに樞要の橋梁である。結構も大したものであつて元々船橋であつただけにその對照になか／＼おもしろいものがある、近いうちに取拂はれるといふ事であるから、人や車の渡る度のカタコトカタコトの長閑なひゞきも名残である。こんな粗末な橋であつたから一朝水が出ると全く交通は絶れてしまふのでその不便不都合は全く想像の外であつた。そこで何とかして大出水にも堪え得る橋をといふ要望は數十年來該地方の人々の頭に深刻にきざみこまれてゐたものであつた、それが大正十二年十二月起工以來一年半ばかり、工費に於て二十八萬九千八百餘圓を投じてやうやく竣工せしめたものである。工事中も河が河だけになか／＼困難であつたのである。

式に雨は禁物である、折柄梅雨のような不順な天氣で測候所あたりを聞きあはせる等心配してゐたが雲もうすらぎ日の影さえ見えたのでホット安心した、人の出足もだん／＼に盛になつて來る、式は型の如く神官の祓式、降神式等順々に進む、集まれる人々は式場の靜けさに反してざわめいてゐる、

煙火は不絶あけられていやが上にも景氣つけられてゐる、渡橋式もグット變つて市助役の先驅で神職、市長、内務大臣、知事其の他といふやうな順である、喜びに陶然とした市民は早く渡つて見たいといふものがあるので、渡橋式を濟まさないうちはと、二日二晩も番をしてゐたといふ、その喜ばしさが思ひやられる、こんな熱の上つてゐる事として式後渡橋の人々が吾もくゝとその雜踏は大したものであつた。

今や洪水の度毎に對岸との交通は絶たれる事はなく圓滑に行くし其の新装はまつたく清々しい氣持である、殊に夏の夕べなど散策に納涼に市人の受くる惠も大したものであらうと思はれる。

上水道は工費百五十萬圓を以て大正十一年四月起工以來三星霜餘にして其の工を竣へ配水池は市の對岸辨天山に設けてあるので、市内に送水するにはどうしてもこの巨川を渡らなければならぬ大事業である。それが松齡橋が出来た爲に添架して完全に目的を達したのである。渡橋式がすんだとき橋の袂にある消火栓を開いて水勢試験をやつてゐるが六十八尺も高く上るといふから素敵なものである。

下水道は大正八年七月其の工を起し、十三年三月竣成したのであつて此工費三十六萬九千餘圓の巨額を示したのであつ

た。これで同市の交通、保健衛生並防火に受くる偉大なる恩惠は年と共に益々深甚なるものがあるのである。

左に各方面から寄せた歡喜に満ちた祝辭を掲げて、四萬有餘の市民と共に心から此の大事業の完成を祝福し、邦家の隆昌を祈る次第である。(大江生)

## 式 辭

我福島市ハ本日ノ賀辰ヲトシ茲ニ上水道下水道及鐵橋架設工事竣成ノ式ヲ舉グルニ方リ内務大臣閣下並貴紳各位ノ貴臨ヲ辱ウスルヲ得タルハ本市ノ最モ光榮トスル所ナリ

夫レ事ノ成ルノ日ニ成ルニアラス其由チ來ルコト久シ我福島ノ地良好ナル飲料水ニ乏シ往昔文久年中坊間既ニ清水ヲ引用セントスルノ議アリシヲ傳フ明治維新ノ當初縣廳ノ所在地トナリ地方政治ノ中心ヲ爲スニ及ヒテ人衆ノ往來繁キチ加フルト共ニ清水引用ノ議再ヒ起リ有志相謀リテ鑿金ヲ爲シ時ノ縣令ニ具情シテ補助金ヲ請ケ茲ニ漸ク實施ノ計成リ鑿地一里餘箱樋ヲ以テ市内ニ導水スナル得タリ是レ即チ本市水道ノ濫觴ニシテ實ニ明治十一年ノ事ナリキ

爾後箱樋ニ替フルニ或ハ割抜管或ハ陶管ヲ以テシタル等屢々改良擴張ヲ施シタリト雖モ市勢年ト共ニ發展シ戸數人口著シク増殖シ加フルニ各種工場ノ増設相踵テ起リ用水ノ需用切ニ増加シ三度源水地ヲ増設シタルモ尙往々ニシテ用水ノ不足ヲ來タシ途ニ市ノ開發ヲ阻害スルモノ多キヲ覺ユルニ至ル茲ニ於テカ完全ナル上水道ヲ建設シ將來進展ノ勢ヲ察シ需用ニ備フルノ必要を痛感シタリ又從來ノ下水道ハ市勢ノ膨脹ト共ニ甚シク疏通ヲ缺キ衛生保健上忽諾ニ付スヘカ

ラサルモノアルヲ以テ併テ調査改善セント欲シ大正二年始メテ水利調査規定ヲ制定シ委員ヲ學ケテ審議討究スルコト幾歳月大正八年斯道ノ權威者工學博士中島銳治氏ヲ顧問トシ水源ヲ査覈シ阿武隈川ノ優秀ナルヲ確認シタリ此ニ於テ布設計ヲ立テ工費百五拾萬圓ヲ計上シ政府並本縣ニ稟請シ多額ノ補助ヲ仰キ大正十一年四月工ヲ起シタリ是ヨリ先水利調査委員會ハ下水道ノ整理改善ノ急務ナルヲ認メ大正八年其ノ設計ヲナシ同年七月工ヲ起シ爾後工事着々進捗シテ大正十三年三月竣成セリ其總工費三十六萬九千八百餘圓ナリトス而シテ上水道ハ大正十一年四月起工以來三星稍豫定ノ年月ヲ餘スコト六ヶ月ニシテ本年三月工ヲ竣ヘ人口五萬ニ對スル淨水ヲ通シ更ニ多少ノ加工ヲ施セバ尙二萬五千人ニ對シ供給シ得ルノ餘裕ヲ存スルノ實績ヲ收メ得タリ又阿武隈川ハ流域ノ長大縣下第一ニシテ一朝洪水アラシカ忽チニシテ汎濫橋梁ヲ流失シ全然對岸トノ交通ヲ杜絶スルコト連日ナルヲ常トス

是ニ於テ方永久洪水ニ堪フルノ鐵橋ヲ架シ公道橋ト爲スルト共ニ導水管ヲ吊架スルニ於テハ獨リ市民ノ幸福ヲ展開スルノミナラス地方ノ福祉ヲ増進スルコト偉大ナルヘキヲ信シ再ヒ本縣及關係信夫郡ニ陳情シ共ニ費額ノ補助ヲ得工費廿八萬九千八百餘圓ヲ計上シ設計及工事ヲ金井彦三郎氏ニ囑シ大正十二年十二月起工以來着々トシテ工ヲ進メ本日ヲ以テ竣成スルヲ得タリ以上三大事業ハ實ニ市民數十年ノ宿望ニシテ先人之ヲ唱道シ今人之ヲ成就シタルモノト謂フヘシ而シテ此完成ヲ見ルヲ得タルハ偏ニ本縣當局ノ地方開發ニ懇切ナルト市民ヲ擧ケテ熱誠ヲ傾倒シタルニ職由スルモノニシテ本市ノタメ慶賀措ク能ハサル所ナリ今ヤ市内ニ汚水滯溜スルモノナク清冽豊富ナル淨水及堅牢優美ノ鐵橋ヲ得タリ衛生ニ保健ニ交通ニ將防火ニ

偉大ナル惠澤ヲ受クルニ至レリ惟フニ今ヨリ後四萬有餘ノ市民ハ一致團結更ニ一層ノ熱誠ヲ加ヘ日進ノ大勢ヲ省察シ以テ市勢ノ振興民力ノ殷盛ヲ圖ル鞠躬盡瘁スルノ覺悟ヲカルヘカラス茲ニ既往ノ經過ト將來ノ希望トヲ略叙シ以テ式辭ト爲ス

大正十四年五月二十六日

福島市長正七位勳四等功五級 二 宮 哲 三

式 辭

福島市業ニ巨費ヲ投シテ上下水道ノ工事ヲ起シテ以來拮据經營克ク其ノ功ヲ積ミ今ヤ之方完成ヲ告グルト共ニ本事業ト關聯セル松齡橋ノ架設亦其ノ功ヲ竣ハル願フニ衛生火防交通其ノ他ニ互リ其ノ利ノ及フ所蓋シ尠少ナラサルヘク獨リ本市ノ福祉ニ止マラサルヲ信ス茲ニ本日ノ盛式ニ際シ衷心ノ祝意ヲ表シ併セテ全市民諸君ノ協力一致益本市ノ發展ニ努メラレムコトヲ望ム

大正十四年五月二十六日

內務大臣 若 槻 禮 次 郎

祝 辭

福島市上下水道及鐵橋工事成本日竣功式ヲ舉行セラルルハ欣賀ニ堪ヘサル所ナリ

惟フニ上下水道ハ大都市ノ施設トシテ緊要缺クヘカラサルモノニ屬シ人家櫛比シ戸口稠密ノ地ニ於テ上下水道完全セザランカ保健衛生上戰慄スヘキ事象ノ屢々發生シ或ハ祝融ノ狂暴ニ對シ脅威ヲ感スルハ敢テ架設ヲ須キサル所ナリ

福島市方上下水道ノ完璧ヲ期シ下水道ノ工ヲ起セシハ大正十年五

月一日ナリ尋テ上水道並ニ之ニ關聯シア大鐵橋ノ工事ヲ起セリ其ノ  
一ヲ以テスルダニ往々越起途巡ヲ免レサルニ而カモ時ヲ同シウシテ  
此ノ三大事業ノ工ヲ進モ克ク短日ノ間ニ完成シタルハ固ヨリ屆ニ當  
ル者ノ勞ヲ多トスヘキモ之ニ協力シタル市民諸氏ノ功モ亦銘記ス  
ヘキナリ

夫レ福島ノ地タル奥羽ノ咽喉ニ當リ信達ノ平野ニ連リ仰イテ秀峰  
ニ對シ俯シテテ清流ニ枕ミ極メテ形勝ヲ占ム今ヤ水道ノ完成ニヨリ  
テ保健衛生上毫無間然スル所ナキノミナラス一朝火災ニ際シテハ克  
ク猛威ヲ挫キ其ノ慘禍ヲ免ル、ヲ得ヘク安壯ナル鐵橋ハ市ノ一大美  
觀ヲ加ヘ且ツ從來長流ニ沮止セラレテ渾然一體タル能ハサリシ對岸  
トノ關係ヲ一層緊密ニシ大ニ近郊ニ發展シテ蔚然タル大都市建設ノ  
機運ヲ促進スルハ洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ

冀クハ市民諸氏協力一致是レカ維持管理ニ力メ以テ長ニ其ノ利用  
ヲ完ウセラレムコトナ

一言以テ祝意ヲ表ス

大正十四年五月二十六日

福島縣知事正五位勳四等 香 坂 昌 康

祝 辭

本日ヲ以テ福島市水道並ニ鐵橋工事竣成ノ式典ヲ舉ケラル、ニ當  
リ一言敢テ述フル所アラムトス

抑々都市發展ノ要素固ヨリ多岐ナリト雖其ノ最モ必須ノ要件タル  
蓋シ上水道ノ布設ヨリ緊且切ナルハナシ福島市當局此ニ觀ルアリ去  
ル大正十一年四月其ノ工事ニ著手シ同十四年三月之カ竣成ヲ告グ其  
間拮据三星霜工費百五拾萬經紀ノ苦心容易ナラサルヲ知ルヘク而シ

テ市民ノ利便及市運膨脹ノ前途頓ニ洋々タルモノアルヲ察スヘシ且  
ツ夫レ該水道送水管ノ架設ヲ利用シテ更ニ經費三拾萬ヲ投シ松齡橋  
ヲ改築シテ一大鐵橋ノ工ヲ竣ハル築設堅牢結構雄偉其ノ美ナルモノ  
ハ平日ノ觀ニシテ其ノ堅ナルモノハ變事ノ備ナリ乃チ全市ノ樞軸街  
衢ノ要衝居然トシテ面目一新ノ壯麗ヲ呈セリ

嗚呼本市ハ叙上水道ノ完成ニ賴リ到處滾々トシテ清河ノ盈浦ヲ見  
ルニ至リ每家源泉無限ノ惠澤ニ浴シ保健ニ衛生ニ產業ニ防火ニ其ノ  
甚大ノ福祉ヲ實現セルト共ニ這般大鐵橋ノ竣功ニ伴ヒ交通上及ヒ經  
濟上ノ效果亦大ニ顯著ナルヲ致シ由來河川ノ暴濫ニ際會シ橋梁墜落  
シテ往來全ク杜絶シ爲ニ市民ノ經濟ヲ紊リ施ヒテ其ノ人心ヲ脅威セ  
ル等ノ不祥事ハ舉ケテ之ヲ一掃スルノ好果ヲ收メ由テ以テ市將來ノ  
隆昌當サニ往日ニ倍蓰スルモノアラムトス市當局並全市民一致協力  
ノ鴻績タル餘輩ノ洵ニ景仰ニ堪ヘサル所ニシテ本市ノ爲慶祝ノ微衷  
轉々深甚ナルモノナクムハアラス

庶幾ハ我カ敬愛ナル本市民各位既往諸航ノ努力熱誠ト幾多苦楚辛  
酸ノ前蹤トニ鑑ミ須ラク能ク當リノ意氣精神ヲ堅持シ宜シク深ク本  
工事ノ維持經營ニ貢獻シ以テ更ニ大ニ市勢ノ進歩發達ニ策勵セラレ  
ムコトナ

之ヲ祝辭ト爲ス

大正十四年五月二十六日

貴族院議員 宮 田 光 雄

祝 辭

我福島縣福島市ノ所謂三大事業タル上下水道及松齡鐵橋工事ノ完  
成ヲ告ケ爰ニ新綠薰風ノ好時節ヲトシテ落成ノ式典ヲ舉行セラレ

惟フニ福島市ハ實ニ我が福島縣ノ首府ニシテ所謂奥羽ノ咽喉ヲ扼シ當ニ地方政治經濟ノ樞軸ト爲リ管内吏民文化ノ源泉ト爲リテ一百四拾餘萬ノ齊シク瞻仰スル所ナルノミナラス亦他ノ各縣市邑ノ主盟トシテ推重欽向セラル、所ナリトス然レニ其所謂都市經營ノ要件中上下水道ノ設備ニ至リテハ即チ殆ド闕如ニ等シク加フルニ古來對岸渡利村トノ交通上唯一ノ連鎖タル松齡橋亦位置構造ノ不完全ヨリ時ニ流落等ノ變故ニ遭ヒ爲ニ聲息ヲ呷尺ニ絶テ懸隔ヲ比隣ニ來スノ患アルヲ免レズ是即チ福島市カ奮テ此ノ三大事業ヲ企畫決行セラルルニ至リシ所以ニシテ洵ニ適切至當ノ施設ナリト謂フヘシ而テ今ヤ其功全ク竣ルチ告ケ愛ニ地ヲ新築橋畔ニトシテ盛大莊嚴ナル落成式ヲ舉行セラルルニ至レリ

頭ヲ回ラセハ巍々タル吾妻ノ雄峰ハ遠ク厚顔ヲ雲際ニ開キ眸ヲ轉スレハ洋々タル逢隈ノ巨流ハ近ク歡聲ヲ橋下ニ揚ク此ノ他四邊ノ風光滿目ノ景物亦皆喜色ヲ呈シ祝意ヲ表スルモノ、如キチ見ル況ヤ福島市民諸君ニ於ケルチヤ復況ヤ當局諸賢ニ於ケルチヤ想フニ應ニ歡極マリテ涙下ルノ感アルヘシ

不肖モト直接ノ關係ヲ有セスト雖モ猶之ヲ助成セシ縣ノ代議機關ニ列スルノ故ヲ以テ亦陪席ノ光榮ヲ荷フ欣事何ゾ之ニ過キム仍テ茲ニ聊カ蕪言ヲ述ヘ以テ祝辭ト爲スト云爾

大正十四年五月廿六日

福島縣會議長 鈴木重郎 治

祝辭

茲ニ本日ノ佳辰ヲトシ上下水道並松齡鐵橋竣成式ヲ舉行セラル、ニ方リ一片ノ祝辭ヲ呈スルチ得ルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

顧フニ上水道ハ本市多年ノ懸案ニシテ市民ノ最モ翹望止マサル所亦下水改良工事ハ市街ノ保健衛生上施設ヲ要スル言ヲ須キサルノ處ナリ而シテ松齡鐵橋架設ニ至リテハ上水鐵管ヲ吊架シ兼テ公道橋ト爲シテ隣接町村トノ交通上利便ニ導キ以テ福祉ヲ増進セントスルニアリ然リ而シテ之レカ企畫ヲ贊シ費用ヲ議スルコト上水道費百五十萬圓下水改良工事費三十六萬九千八百餘圓鐵橋工事費二十八萬九千八百餘圓ニ及ヒ本市ノ經濟狀況ヨリ推シテ其ノ額敢テ僅少ニ非ラスト雖最近都市經營上閑却スヘカラサル重要ナル施設ノ一ニシテ又直接本市將來ノ發展繁榮ニ資スルトコロ甚大ナルモノアルヲ信シ市會ハ常ニ滿場一致其施設ヲ贊シタリ而シテ當路者克ク其ノ工事ヲ督シ當務者克ク其ノ工事ニ當リ茲ニ竣成チ告ケ盛大ナル式典ヲ舉行セラル、ハ市民ノ最モ欣喜措カサル所ナリ希クハ當路者ニ於テ市民輿望ニ副ヘテ將來ノ經營ヲ強固ニシ益市ノ發展ト向上ト計リ以テ市民ノ福利ヲ増進セラレンコトヲ聊カ蕪言ヲ述ヘテ祝辭ト爲ス

大正十四年五月二十六日

福島市會議長 齋藤利助

祝辭

新緑乾坤ヲ彩トル艷陽五月ノ天巒峨タル丘陵ノ影參差トシテ起伏畫クカ如シ一竿空ヲ指サス處翠巒滿目ニ溢ル、ハ其レ椿館ノ貯水場ニアラズヤ漾々タル阿武隈ノ流レ澎湃トシテ千古滄ルコトナシ銀蛇天ニ朝スル處蛟龍雲際ニ懸ルハ是レ松齡ノ新鐵橋ニアラズヤ嗚呼山水ノ美ハ人工ノ粹ト相和シ寸毫モ背馳スルナシ眞ニ一幅ノ活畫ト云フ可シ茲ニ吾カ福島ノ市今ヤ水道工事完ク成リ新々ニ一大鐵橋竣成チ告ケ特ニ本日ノ吉辰ヲトシテ落成祝賀ノ式典ヲ舉グ小職モ亦縉紳



來賓ノ末班ヲ汚スノ光榮ヲ擔フ欣幸何モノカ之レニ加ヘン惟フニ公衆保健ノ途一ニシテ足ラズ而シテ其最タルモノ完全ナル上水ノ設備ノ如クモノナシ既ニ幾千ノ鐵管深ク地底ニ縱橫シ市内隨所ニ混々トシテ盡キサルノ清水ヲ噴ク豈慶賀ニ堪フ可ケンヤ況ンヤ鐵欄高ク半空ニ聳エ石柱深ク河底ニ入り堅牢壯麗ヲ極ムル橋梁ノ加ハルアリ斯クテ交通運搬ノ便モ長ヘニ安ク吾ガ市民ノ生活ヲ安定ニシ引イテ産業發展ヲ助成スルモノ甚大ナルヲ信ス本市將來ノ利益寔ニ料ルベカラザルモノアリ大イニ太白ヲ舉ケテ祝賀セサルヲ得ンヤ欣喜ノ情燃エテ禁スル能ハス聊蕪言ヲ陳ホテ祝辭ニ代フト爾云

大正十四年五月二十六日

福島商業會議所會頭 草 野 半

祝 辭

松齡橋架設工ヲ竣ヘ鐵欄高ク空際ニ横ハリ石柱深ク河底ニ入ル洶ニ結構ノ堅牢觀望ノ壯麗本縣殆ント其比ヲ觀サル所ナリ

抑々松齡橋ハ年次交通頻繁ナルニ係ラス從來不完全ナル橋梁ナリシカ爲メ阿武隈川一度汜濫スレハ忽チニシテ流失シ僅ニ小舟ヲ以テ之レカ通行ノ用ニ供シ人馬交通ノ不便謂フヘカラス是ニ於テ福島市並ニ信夫郡ハ此災厄ヲ免レンカ爲ニ焦心苦慮スルコト久シク爲メニ投シタル資力亦幾何ナルヲ知ラス然ルニ福島市ニ於テハ曩ニ上水道ノ計劃ヲ立テ之レガ貯水池ヲ對岸辨天山ニトシタルヲ以テ通水路ハ松齡橋ニ依ルヲ便トシ即チ茲ニ本橋並ニ上水道併セ計劃セララルニ至リ工ヲ起シテヨリ歲ヲ閱スルコト四星籍工費實ニ百八拾萬圓今ヤ一舉ニシテ二大事業ヲ完成ヲ見ルハ誠ニ欣喜ニ堪エサル所ナリ

惟フニ福島市ハ土地低濕水質不良ナルヲ以テ是レカ飲用水ハ舊ニ

市民ノ健康ヲ害スルノミナラス惡疫蔓延ノ媒介ヲ爲スコト少ナカラス殊ニ近年商工業發達シ戸口增加スルニ伴ヒ用水益々不潔ヲ極メントスルニ至レリ斯ノ秋ニ方リ水道ノ設備ハ獨リ衛生上ヨリ觀テ緊要ナルノミナラス廣ク市發展上喫緊ノ急務タリ

會々財界不況ナルニ係ラス克ク福島市民力巨資ヲ吝マヌ之レカ經營ヲ敢行セル決シテ故ナキニアラス

今ヤ市井至ル所清流滾々トシテ噴出シ阿武隈川畔新線ノ裡新ニ松齡橋ノ美觀ヲ添ヘ風致秀麗洵ニ詩趣横逸ノ感ナクムハアラス

斯クノ如クシテ福島市將來ノ發展ハ方ニ刮目シテ待ツヘキモノアリノミナラス亦以テ關係町村ノ幸福愈々大ナルモノアラン庶幾クハ今後一層和衷協同以テ地方ノ振興邦家ノ隆昌ニ貢獻センコトヲ茲ニ本日ノ盛典ニ列スルノ光榮ヲ荷ヒ歡喜ノ餘リ聊カ蕪辭ヲ陳ヘテ祝辭トス

大正十四年五月二十六日

福島縣信夫郡長 穴 澤 義 弘

祝 辭

本日福島市水道並鐵橋工事竣成式ヲ舉行セララルニ當リ列席スルノ光榮ヲ得タルハ頗ル欣幸トスル所ナリ

由來福島市ト信夫郡トハ唇齒同車ノ關係ナリ有シ利害休戚共ニ相通シテ離ルヘカラサル地位ニ在リ特ニ從來ノ松齡橋ハ市ト郡トノ共同支辨ニ依リテ之カ維持經營ニ當リ幾回方落橋流失ノ厄ニ遭ヒ其苦楚ヲ共ニシタルモノ今ヤ此ノ宏壯堅牢ナル鐵橋ノ竣工ヲ見追懷轉々感ニ堪ヘサルモノアリ又水道ノ完備カ市民ノ保健衛生ニ寄與スル所甚大ナルハ言ヲ須ヒス是豈奮ニ福島市民ノ幸慶ノミナランヤ

平素文化的施設に汲々たる福島市ガ今此ノ二大事業ヲ完成ス新興市民ノ意氣眞ニ天ニ冲スルノ概アリ更ニ實力ノ充實ト共ニ將來ノ飛躍發展誠ニ測リ知ルヘカラス郡民亦等シク歡喜措ク能ハサル所ナリ茲ニ郡内町村長ヲ代表シ聊蕪辭ヲ呈シテ祝辭トナス

大正十四年五月二十六日

信夫郡町村長惣代吉井田村長 片 平 清 六

祝 辭

運輸交通ノ利便ハ人心ヲ疎隔スルコト最モ大ナリ茲ニ福島市ハ松齡橋工事竣工ト同時ニ水道ノ通水ヲ完成シ本日ヲ以テ初渡開通ノ式典ヲ舉行セラルルニ方リ本職モ亦其席末ヲ汚スノ幸榮ニ浴シ誠ニ欣快ニ耐エス回顧スレハ本工事ハ起工以來殆ト二ケ年餘ノ歲月ト巨資トヲ投シテ以テ竣成ノ結果ヲ見ル文質共ニ相適フ其美ナルモノ平日ノ觀ナリ其堅ナルコト變時ニ備ヘリ依テ再ヒ南北兩斷ノ憂ヲ洗除シ交通モ愈々利便ニシテ人心益々協和シ一橋一水新ニ成リテ萬衆ノ作興モ亦新ナルモノアラム嗚呼偉ナル哉聊ガ蕪詞ヲ呈シテ祝辭トス

大十四年五月二十六日

信天郡渡利村長 本 田 末 三 郎

◎木會長良及楢斐三大架橋の建議

縣民の輿論に反する道路政策

大正十三年度に於て起工する豫定であつた一號國道木會川の架橋は、財政緊縮を名とし三重縣知事が從來の經過を無視して工事を廢止したことは屢々報道したが、縣民の輿論は知

事の道路政策を全然裏切つて、木會川架橋を廢止するやうな劣策は縣民一同の默視することが出来ないところである。

更に進んで長良楢斐の三大川にも速に架橋して縣の發展を助成せられたいと、の建議を内務大臣に提出した、此建議を受取つた内務省土木局の當路者はこのやうな建議を當省に提出するのは間違つて居る、既に政府は架橋の必要を認め窮乏して餘り多くない道路改良費の一部を割いて三重縣へ補助する通知を發したに拘はらず三重縣は自ら工事を廢止したのであるから此建議は三重縣知事に提出した方が可いのであると言つて居るが左様な理屈を言はずに建議の趣旨を容れて誤つた考を持つて居る三重縣を指導して一日も早く架橋の實現を希望して已まない。(た)

三大川架橋遂成に關し建議

木會、長良、楢斐三大川の架橋は三重愛知兩縣の隔絶を聯接し交通運輸の利便産業發達國利民福の増進上最も喫緊の事業たるは勿論我國交通政策上將來に於ける國道の大改修に關聯し眞に重要且つ緊急を要する事業たるは敢て茲に絮説を要せざる所なりと信ず而して政府に於ても其必要を認められ架橋總工費中四分の三を國庫より支辨し關係兩縣は單に殘額四分の一の負擔のみにて足ることなし以て工事の圓滑遂成を期圖せられたるは洵に地方縣民の俱に歡喜措く能はざる所なり

斯の如く架橋の大策既に樹立せられ經費支出方法亦確定せられた

るを以て冀くは政府當局に於ても今日此際速に架橋工事に着手せられ以て其速成を期せられんことを

茲に本聯合會の決議を以て謹而建議候也

大正十四年五月二十日

三重縣商工聯合會會長 西 口 利 平

内務大臣若槻禮次郎殿

### ◎朝鮮交通展覽會開催

一朝鮮總督府の主腦者を始め朝野の名士多數贊助の下に創立した朝鮮交通協會では、七月一日から同日まで京城府朝鮮總督府商品陳列館に於て、交通展覽會を開き道路の模型製作品並繪畫寫真圖表自動車馬車人力車自轉車其の他の用器實物を一般公衆に觀覽せしめ、交通百般に關し宣傳するそうである、之が爲に廣く陳列品の出品を勧誘して居るから希望者は續々と出品して我國交通改善の爲に盡くされたい。(た)

### ◎技術者資格檢定試験

日本工人俱樂部では技術の優劣を出身學校の種別やら階級に依つて判定の標準とする因襲を打破し、實力と高尚なる人格を有しながら學問に遮ぎられ伸展し得ざる有爲の技術者を社會に推挽して技術の向上を圖り、併せて技術界に潑刺の活

氣を漲らせんとする目的で技術者資格檢定試験を行ふこととし去る五月二十二日より三日間同俱樂部で施行した。今回の試験は土木科第三種(工手學校程度)であつたが試験場所が東京であつた爲め地方からの受験志願者は殆んどなく、東京及附近居住者の少數であつた。

尙同俱樂部は社會の趨勢に鑑み來年度に於ては第二種(高程度)の試験を行ひ必要に應じて地方巡回試験をも行ふ計劃があるといふ、今回の試験に合格した者は左の三名である。

新潟縣佐渡郡相川町大字下戸町七十一番地

早 水 虎 雄

東京市牛込區東五軒町三十五番地

内 田 竹 次 郎

青森縣下北郡大湊村大字大湊字西ノ平八番地

小 笠 原 石 次 郎

× × × × × × × ×